

ペインクリニック治療指針改訂第6版 追補版について

本邦では带状疱疹予防で2020年1月、带状疱疹サブユニットワクチン（シングリックス®）が認可されました。带状疱疹・带状疱疹後神経痛の予防は大きな課題であり、ワクチン接種の啓発の必要性から「带状疱疹，予防」の項目を変更して追加いたします。

追補版

IV-A-1 带状疱疹

3. その他の治療法

4) 予防

带状疱疹後神経痛は難治性の症例も存在するため予防が重要である。带状疱疹・带状疱疹後神経痛予防のために带状疱疹ワクチン接種が推奨される。本邦では、2016年3月乾燥弱毒生ワクチン（以下生ワクチンとする）、2020年1月サブユニットワクチン（シングリックス®）の2種類が带状疱疹予防目的でそれぞれ認可された。

どちらのワクチンも接種対象年齢は50歳以上である。生ワクチンの特徴は、接種回数が1回（皮下注射）で、予防効果は約50%と考えられている。生ワクチンのため、免疫不全患者には使用できない。一方、サブユニットワクチンは、不活化ワクチンで、接種回数が2回（筋肉注射）で、予防効果は約90%と考えられている。免疫不全患者には不活化ワクチンであるサブユニットワクチンが選択肢となる。サブユニットワクチンを用いた研究で、50歳以上のワクチン接種群とプラセボ投与群を比較し、3.2年のフォローアップ期間中に、带状疱疹の発症頻度はワクチン接種群では年間0.3人/1000人であったのに対してプラセボ群では年間9.1人/1000人であった⁹⁾。ワクチンによる予防効果の持続期間については、接種後3～11年という報告がある¹⁰⁾。ワクチンの認知度はまだ低いですが、一部の自治体（名古屋市、東京都文京区など）では予防接種の費用助成が始まっている。

今後の課題として、ワクチンの有用性についての啓発活動、長期効果の追跡、定期接種化などが重要である。

9) Lal H, et al : Efficacy of an adjuvanted herpes zoster subunit vaccine in older adults. N EngJ Med 2015 ; 372 : 2087-2089

10) Cook SJ, et al : Review of the Persistence of Herpes Zoster Vaccine Efficacy in Clinical Trials. Clinical Ther 2015 ; 37 : 2388-2397